平成２９年度中山間「ふるさと支援隊」活動報告書（概要版）

活動テーマ

「使われなくなったもの」の価値の再発見を通した地域活性化

小川町 原川、笠原、靭負、木部、勝呂、木呂子、増尾、飯田地区　立教大学

１　活動目的

これまでの活動を通して、空き家となっている古民家、耕作放棄地、手入れのされていない空き地等「使われなくなったもの」が地域の課題となっていることが明らかになった。同時にこれらの「使われなくなったもの」を地域活性化の資源としてとらえて活動をしている団体や地域住民の方々がいることも分かった。これらの団体、地域住民の方々との交流や意見交換を通して、地域の「使われなくなったもの」を地域資源として活用すること、また本活動を通して新たな資源を発見することを本年度の活動目的とした。

２　活動地域の現状

埼玉県の中央部よりやや西に位置し、面積は約 60 平方キロメートル（東京都世田谷区とほぼ同面積）の小川町は、江戸時代には江戸から秩父に至る道と八王子から上州に至る道が交差する商都として栄えた。また 1970 年代半ば以降、都内から離れた低価格の住宅需要の高まりとともに同町の人口も増え、1995 年には 38000 人弱に達したがバブル経済の崩壊（1990 年代末）から若年人口の流出、高齢化が進んでおり、2017 年時点での人口は 30619 人、65 歳以上の割合は 30.3%に達している。また、本活動の主な対象地域である竹沢地区（原川、笠原、靭負、木部、勝呂、木呂子）の同割合は 37.1%である。

このような人口減少と高齢化に伴い、地域コミュニティの地域行事の縮小、空き家や耕作放棄地の増加などの課題を抱えている。

３　活動内容

本年度の活動は、相互に関連する以下 7 つの活動を実施した。

① 空き家の改修と活用：地域住民との協働による築 118 年の古民家再生、活用活動を地域住民と協力して実施した。また地域にある空き家の活用および地域の空き家活用方法についての検討会に参加した。

② 耕作放棄地の活用：耕作放棄地を開墾、整備してサツマイモを栽培し、学園祭において大学芋を提供した。また開墾作業を通して地域の方々との交流の機会をもった。

③ 地域自然資源の発見企画実施：小川町に移住してきた米国籍オーストリア人カメラマンの協力を得て、小川町の自然の魅力を地域の人たちと発見し発信する企画を実施した。

④ 地域行事への参加：七夕祭り：町の祭りに参加することで、参加者が減少している現状を知ることができた。

⑤ 小川高等学校生徒との連携

１）空き家（①）を活用した地域交流イベントの実施：「蒸しかまど」を使っての炊飯体験実施。

２）地域活性化アイディアワークショップ企画実施。
３）小川高等学校放送部映像作品鑑賞会実施。
４）小川町議員へのインタビュー企画準備。

⑥ 国際交流企画の実施
１）地域住民のネットワークを活用した国際交流企画の実施。
２）古民家を活用した国際交流企画の実施。

⑦ ニュースレター、フェイスブックによる情報発信
3 号（7 月、10 月、11 月）発行し、地域住民、商店街、町役場に配布した。また、フェイスブックを開設し、随時情報を発信した。

４　成果

「使われなくなったもの」として空き家と耕作放棄地に注目して活動をした結果、地域活性化において地域住民の果たす役割の大きさに気づくことができた。その具体例が地域の高校生（小川高等学校）と外国籍の住民および滞在者である。

若年層の流出に伴う人口減と高齢化は小川町の直面する課題である。その当事者である地域の高校生とともに地域活性化活動をすることで、他の世代の地域住民の地域活動への参加を促すことができた。

また、2020 年の東京オリンピックに向けて海外からの旅行者増加が予想されている。本年度、外国籍の住民の協力を得て活動を実施した。また、小川町に滞在する旅行者との交流の機会をもつことができた。さらに改修を進めてきた古民家で国際交流企画を実施した。これらの活動により、地域資源を活用した国際交流企画や海外からの旅行者へ提供する企画について検討する機会をもつことができた。

さらに、本年度の活動の結果、行政との連携を促進する企画の着想を得ることができた。地域活性化において行政との連携は重要であるにも関わらず、地域住民の政治への関心は必ずしも高くない。このような現状を改善する一つの方法として小川高等学校生徒とともに小川町議会議員へのインタビューを実施することになった。すでに町議会事務局を通してすべての議員に依頼をしている。地域の高校生とともに町議会議員へのインタビューを実施し、その結果を町民に対して公開していくことは、若年層のみならず町民全体の行政への関心を高めることが期待できる。さらに古民家を宿泊施設として利用する場合、行政との連携は不可欠となるため町民が主体的に古民家活用を通した地域活性化を意識する機会となることも期待できる。このような企画の着想が得られたことも本年度活動の成果である。

５　課題

本年度の活動は、新規に小川町に移住してきた地域住民との連携が中心であった。古くからの住民との交流も、ニュースレター配布や耕作放棄地の活用作業を通して一定程度達成することはできたもののまだ十分とはいえない点が本年度活動の課題である。

６　次年度以降の計画

本年度の活動成果を踏まえ、今後の活動計画として以下の４点を予定している。

６－１．古民家、耕作放棄地の活用：
・本年度に続き古民家、耕作放棄地を利用した地域交流イベントを実施する。
・地域の空き家、古民家を活用するための地域ネットワークづくりを進める。

６－２．地域の高齢者の語りを写真とともにまとめる：

・竹沢地区をはじめ、小川町で暮らす高齢者にお話をうかがう。またその様子を写真で記録して冊子としてまとめる。本年度協力してくださった小川町在住米国籍カメラマン（ハンス・ナグル氏）の内諾を得ている。

６－３．町議会議員インタビューの実施と発信：

・小川高校放送部生徒と協力して、小川町町議会議員インタビューを実施して町民に向けて発信する。

６－４．地域行事への協力、参加

・来年度 70 周年を迎える七夕祭りなどの地域の行事の運営に参加する。

【写真】

ナグル氏の協力による竹沢地区の自然の魅力発見発信イベント（8 月 10 日）

地域交流イベント開催（9 月 16 日）

古民家活用についての会合参加（10 月 28 日）

小川高校生徒との交流（11 月 12 日）

地域資源である古民家を活用した日韓交流イベントの実施（12 月 22 日）